

既存の小学校・中学校と義務教育学校の違い

	既存の小学校・中学校	義務教育学校（小中一貫校）
こども	メリット <ul style="list-style-type: none"> ・家から近く通いやすい子どもが多い ・中学校に進学するときに、環境が変わるため気持ちの切り替えができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生のうちから中学校卒業までの見通しが持てることで何をするか分かり、不安が少なくなる ・小学校のうちから、一部教科担任制、定期試験の施行、部活動体験等を実施するなど、ゆるやかに中学校の形に移行できる ・一部教科担任制により、小学校から専門性の高い指導を受けることができる ・小学校で指導を受けた教員がいる安心感 ・9年間でやれるようにすることやリーダー体験等を段階的に積み上げることができる ・下級生は上級生へのあこがれ、上級生は下級生への思いやりを持つ ・呼び方や授業のルール等統一したものとなり、教員や教科ごとの個別対応が減り負担や混乱が少なくなる ・学習意欲の向上、学習・生活のルールの定着（平成29年度文科省調査結果） ・遠方からでもスクールバスで安全に通学できる
	デメリット <ul style="list-style-type: none"> ・小学生から中学校の状況が見えにくい（進学への不安） ・中学校になると、教科担任制となり、定期試験、部活動が始まる等、小学校から急に環境が変わる ・中学校に進学すると、知っている教員（頼れる大人）がいない不安 ・小学6年生は小学校ではリーダーだったのに、中学校では一番下になり、今までの積み上げたリーダー体験が途切れる（やれる範囲が狭まる） ・小・中学校の教員からの呼ばれ方の違いに戸惑う ・小学校は、授業のやり方が基本的には1年間同じ教員が統一された指導をしたいが、中学校では、教科で指導方法（授業の受け方・ノートの取り方・試験用紙様式等）が異なる ・路線バスがなく、かなり遠方から徒歩で通学している子どもがいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・家から遠くなる可能性がある ・中学校になるときの心機一転の機会がない（クラス替えては環境が変わる）
教員	メリット <ul style="list-style-type: none"> ・採用試験で希望した小学校または中学校が自分の教職の中心になる。基本的には、小学校（中学校）採用は、生涯小学校（中学校）勤務となる。（校長は別） ・小学校、中学校の指導を極められる 	<ul style="list-style-type: none"> ・9年後の姿をイメージし、義務教育9年間で子どもたちを育む仕組みや体制、指導方法をつくり実践する。 ・小学校と中学校の教員がそれぞれの指導よさや考え方を知り、お互いの指導に生かすことができる。 ・成長発達の段階が目に見えて理解しやすい ・希望により小学校の教員が部活動を担当することができる
	デメリット <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校は指導観が違う。かつ、お互いの指導を知らない ・中学校は子どもが小学校でどんな積み上げをしてきたか、小学校は子どもが中3（義務教育の最終学年）でどんな姿になるのか見えにくい。 ・同じ子どもに対して義務教育期間に違う指導をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに組織をつくり、推し進めようとする、小・中それぞれの経験から意見をまとまらないことが多い。 ・小・中両方の免許があると、1～9年生のどの学年を教えるか分からない
組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・校長は小学校・中学校それぞれ1人ずつ ・学校ごとに教職員組織がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長は1人。1人のリーダーの下、一貫した教育が可能 ・教職員組織は1つ
区切り	小学校6年、中学校3年	9年
根拠法	学校教育法（昭和22年制定）	学校教育法一部改正（平成28年）
特別な教育課程	文部科学省の許可が必要	学校の判断で可能

※義務教育学校においても便宜上小学校・中学校表記をしています。